

## 平成28年度町村議会広報研修会に参加して



10月25日に東京都千代田区の「シェーンバツハ・サポー」で開催された「平成28年度町村議会広報研修会（主催：全国町村議会議長会）に小川榮一委員とともに参加した。

当日は、東日本の町村議会を対象に199の議会から500名以上の参加があり、多くの方に読んでもらえる議会広報を編集するための考え方や工夫を学んだ。

1 番目の講師、合同会社 耕文社・代表の赤羽博之氏からは「分かりやすく、伝わる広報誌の表記」というテーマの講義を受けた。

議会広報を読んでいただくためには読まれるための配慮が必要で、そのための『3つのマナー』を紹介いただいた。行政文章は長くなってしまいがちだが、まず『短く書く』こと。不必要なことは徹底して削ることで洗練され、読み手の負担も減る。次にくどい印象

を与える『重複を省く』こと。最後に読み手の頭の中に絵が浮かぶように『具体的に書く』こと。これらを意識した上で、書いた文章は第三者の目で『読み返す』ことで、よりよい推敲が行えることを学んだ。私自身も普段文章を長く書いてしまっていたので、非常に参考になる講義だった。

2 番目の講師の豊田健一氏（『月間総務』編集長）からは、「読まれて、伝わる議会広報誌 ドラッカーに学ぶ10の【Key word】」の講義を受けた。

豊田氏は、広報は『組織と社会の望ましい関係づくり』と言われ、受け手目線に立ち広報することの重要性を述べられた。実生活との『つながり感』、広報誌で何がしたいのかと言う『読後感』、しっかりと『ターゲット』を定めているか、などと言った10項目について説明いただいた。

紙面ですべてを伝えるのではなく、Webとも連動した『メディア・ミックス』や、読者モニター制度を活用した『協働広報』と言った考えについても紹介いただき、是非検討していきたいと思った。

3 番目の講師、議会広報サポーターの芳野政明氏からは、岩手県金ケ崎町と山形県川西町議会の広報を「先進事例」として解説された。

金ケ崎町では『常に町民とのキャッチボールを』と意識され、在住の町民に登場してもらった町民主役のページがあり、川西町でも『町民の声』と言ったインタビュー記事で個人がフォーカスされていた。住民を巻き込み協働を考える上での工夫も必要と感じた。

広報の専門家や他町村の事例から多くを学べた研修で、今後取り入れて広報編集に臨みたい。

これまでに行われた一般質問や要望がどのように取り組まれたかレポートした。

**Q** 電子黒板等デジタル機器を各普通教室へ設置する考えは

**A** 学校現場や児童生徒の実態に即した機器の選定等、導入に向けて検討する

**now** 小中学校の全普通教室に電子黒板システムを導入

授業の一層の充実、教材の映像化による学びの深化及び効率化を目的に、平成28年9月に導入した。

2学期からは、各学校において主要教科についてデジタル教科書の活用がなされている。



## 安八郡3町議会議員 研修会に参加



11月17日（木）、「安八郡3町議会議員研修会」が開催され、加茂郡八百津町の「杉原千畝記念館」を視察した。

杉原千畝記念館は第二次大戦中ユダヤ人にビザを発給し、約6千人もの尊い命を救った外交官である杉原千畝の、人道的な功績をたたえる記念館で、年間約2万人が訪れている。

記念館の職員より、杉原千畝の生い立ちや、功績について説明を聞いた。その後、館内を見学した。

## 委員会の動き 12月定例議会

### 民生文教常任委員会

12月6日（火）

#### 協議議題

1. 定例議会提出議案審査
2. 報告事項
  - ・教育委員会事務事業の点検、評価報告（平成27年度事業）

### 総務建設常任委員会

12月7日（水）

#### 協議議題

1. 定例議会提出議案審査
2. 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書
3. 報告事項
  - ①空き家実態調査
  - ②（主）岐阜関ヶ原線丈六道工区高架橋（第1期線）完成記念式典
  - ③下水管布設工事に係る追加工事の発注見直し